

平成 28 年度 第 5 回小松市総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 29 年 3 月 9 日 (木)
開会 16 時 00 分 閉会 16 時 55 分

2 会 場 小松市役所 3 階 3B 応接室

3 出席者 小松市長 和田 慎司 (議長)

小松市教育委員会

教 育 長 石黒 和彦
委 員 北村 嘉章
委 員 野田 美和子
委 員 蘆邊 千鶴子
(吉原慎吾委員は欠席)

(事務局関係)

総合政策部長	早松 利男
総合政策部 経営政策課長	藤井 勝司
総合政策部 経営政策課主幹	出口 真澄
教育委員会事務局 教育次長	山本 裕
教育委員会事務局 シニアマネジャー	柿本 欣也
教育委員会事務局 学校教育課長	波佐尾 雅人
教育委員会事務局 青少年育成課長	東谷 勝美
教育委員会事務局 教育庶務課長	吉田 均
教育委員会事務局 教育庶務課参事	池田 美和子

4 討議事項 ○平成 29 年度小松市の教育プラン
○松東地区小学校統合後の新しい学校のあり方

5 会議の経過及び発言

○開 会

○和田市長あいさつ

- ・国では学習指導要領の改訂や平成 30 年からの小学生の英語教育開始、大学受験のあり方の変更などを進めており非常に目まぐるしいが、子供たちや保護者にとってプラスになるようにしていくことが大事である。
- ・今日の議論も様々なご意見をいただき、決めることは決めていき、スケジュールも皆さんと共に確認していきたい。

○討議事項

(1) 平成 29 年度小松市の教育プラン

〈事務局：山本教育次長〉【資料①】により説明

- ・教育プラン立案にあたっては、今年 2 月に文部科学省から示された次期学習指導要領の改訂の趣旨と、小松市独自の取り組みや本市を取り巻く環境の変化の 2 点を踏まえている。
- ・①学力の向上、②生徒指導体制の充実、③青少年の規範意識の育成、④コミュニケーション力の育成、を 4 つの柱とし、重点をおいて教育政策を進めていく。
- ・政策を効果的に進められるように教育委員会全体として、①人材の育成、②小・中・高・大学の連携、③学校評価の改善、④部活動の改革、⑤教育環境の整備、の 5 つの課題に取り組んでいく。

〈議長〉教育長から補足することはないか。

〈石黒教育長〉・私たちが今から努力しなければならないこととして、知識の定着と知識・技能を活かす力のほか、今までなかった「社会とどう関連付けていくか」という視点が求められるのではないかと。言い換えれば、社会がどういう人材を望んでいるのかという視点に立った教育を、学校教育の中に位置付けていくということである。

・英語は教室の中だけで行われるのではなく、学校生活全体の中で活かされていくことが大事であり、E T ルームを設置した後どう運用していくのかという視点が必要である。こまつチャレンジスクールでも A L T を投入し、生きた英語を使って、子供たちに充実感、満足感を得させていくということも大事である。

・小・中・高・大学の連携とあるが、教育は連続性がなければならない。小・中・高・大学がブツ切りではなくお互いに教え学び合うことで、社会と関連していく学力につながっていくのではないかと思う。

〈議長〉では、皆さんからご意見、ご質問をいただきたい。

〈野田委員〉良いプランになっていると思う。

〈北村委員〉・学校ベースではなく、社会が何を求めているのか、社会の流れや国の方向性を考え、これからの教育プランを出していかなければならない。

・英語はまず「書く」ということを重んじており、それから「聞く」「話す」であるが、現在の社会では「聞く」「話す」が基本になってきている。そういう考え方も変えていかなければならない。ひいては、社会に役立つ人材になっていくのではないかと。

・小・中・高・大学の連続性について、例えば、市立高校の芸術コースの先生が小学校・中学校で教えることで実態も分かるし、市立高校の生徒が小・中学校で音楽や美術を教えることでお互いに学べる。これは小松にとって大きな財産である。利点を活用しながら、子供たちにとって素晴らしいプランができればと思っている。

〈蘆邊委員〉・昨年から行われている、こまつチャレンジスクールやE Tルームは、とても良い政策だと思うし、少しずつ実を結んできていると感じている。こういう企画は子供たちがそこへ行って参加するものであり、人数も限られているが、逆に先生が各地区へ出向き、地域の皆さんと一緒に取り組んでいくというものがあっても良いのではないかと。
・小松市独自の道徳教材の開発は非常に素晴らしい。小松のことを理解してもらうためにも、ぜひ新任の先生方に率先して活用していただきたい。
・様々な取り組みは、進めながら問題点があれば対処し、改善しながらやっていけばいいのではないかと思う。

〈議長〉・人の移動が多い時代になり、転校する児童生徒も増えている。スムーズに受け入れていくためにどうしていくか、地域生活にどう溶け込むのか、教育の世界でも考えた方がいいと思う。
・この教育プランは中学生主体の内容だと感じる。大事なのは小学校低学年であり、こども園との関係も付け加えたら良いのでは。

〈石黒教育長〉・子供たちにやさしいまちづくりという視点から、転入生の受け入れ体制は当然良いものにしなければならないし、スタートを大事にしなければならないと思っている。
・幼児教育と小学校のつながりという話があったが、小1プロブレムについては小松市では2年ほど前から研究をしているところであり、小1プロブレムの頻度は下がっている。今の状況で十分満足しており、心配ないと思っている。

〈北村委員〉・小学1年生は大変大切な時期である。学校に入ってどうすべきか、小松独自の小学1年生のプログラムを考えても良いのではないかと。
・規範意識は小さい時に身に付けて基礎になっていく。そういう部分でもこども園と小学校が連携していかなければならない。
・他市から転入してきた方々が、どういう考えを持って小松の教育を見ているのか、どういう印象を持っているのか、全国の他の学校との比較やノウハウなどの情報に注視して、どうすべきであるかということ、戦略として持っていかなければならない。

〈石黒教育長〉最近では中近東・中国など様々な国籍の子供が増え、通訳がない状況であり、我々の課題となっている。英語もできず全く言葉が通じないので、身振り手振りでやっている。

〈議長〉・グローバル化が進展し、国内外の人々がダイナミックに移動する時代なので、先生方も児童生徒も、そういう意識を持たなければならない。転入生のことを考えてあげることは、小松市は良いまちだという印象になる。その視点を忘れず、これから各学校にブレイクダウンして、学校の特性に合ったものに置き換えればいい。
・「社会の変化を見据えて」の部分で、2018年問題などは小松市とあまり関係ないように思う。その辺は訂正してほしい。

〈石黒教育長〉英語教育については市長のご理解をいただき、大変恵まれた状況である。ICTに関しては他の市より断然に良い環境になっている。グローバル化を見据えて頑張っていきたい。

〈議長〉能登から加賀まで異動している教員たちに、小松市は教育環境が整備され他とは違うと感じてもらえれば面白い。先生方もぜひ小松市で仕事がしたいとポジティブになれば、子供たちにも伝わる。

(2) 松東地区小学校統合後の新しい学校のあり方

〈事務局：山本教育次長〉【資料②】により説明

- ・前回の会議では、平成30年4月に3つの小学校を統合し、松東中学校と小中一貫教育を開始、さらに、平成33年4月からは小中が一体となった義務教育学校としてスタートする構想と新学校のあり方について協議した。
- ・今回は平成29年度以降のスケジュールもまとめたので、協議していただきたい。
- ・自然豊かで三世代同居家庭が多いといった地域の特色を活かすことが、新しい学校の一つの柱になる。
- ・本市は、北陸の国際都市という特性を持ち、外国語教育や青少年の国際交流が盛んである。グローバル化に積極的に取り組むことがもう一つの柱である。

〈石黒教育長〉義務教育学校は、9年間で自己を持つということである。小1プロブレム、中1ギャップのほか、最近では中2ギャップも高1ギャップもある状況の中、その原因を見た場合、1年ごとの分断された教育が行われている可能性がある。義務教育学校は1本の串にして9年間をつくっていくという狙いがある。そういう新しい学校づくりについて、市内だけでなく県内に向けても発信し、より良い教育を推進していきたい。

〈蘆邊委員〉これに付け加えて、行く行くは短期留学や交換留学など子供たちを海外へ出してあげるところまでいけたら良いと思う。

〈北村委員〉・プランの方向性は良いと思う。心配なのはスムーズな移行である。初めの一貫教育の時から義務教育学校のイメージを作って皆さんに周知徹底していくことが必要である。

- ・管理職や教職員に対して理解できるよう周知徹底していくことも大事である。
- ・英語や理科に特化してやらなければならない。市立高校は全員が英検準2級をめざして取り組み、受験生が多くなったという例がある。そういう数値目標も大切であり、新しい学校では、例えば英検3級といった高い目標を持ってやっていくことも一つの方法ではないか。
- ・広域通学は学校の魅力の目安になり、評価につながっていく。意見を聞きながら改善していかなければならないと感じた。

〈議長〉このプランでは広域通学について触れていないようだが。

〈事務局：山本教育次長〉今までの特色として記しているが、まだ、はっきりとは入れていない。

〈議長〉そういう方針をいつ打ち出すのかということである。それが7月までなのか。教育委員会の事務方で合意をしていただきたい。基本的な部分を決めて、地元との話し合いもしなければならない。

〈石黒教育長〉誤解のないように説明すると、当初から広域通学を継続していくという計画で進めている。

〈議長〉これまでの西尾小学校の広域通学と今回は違うと思っている。他の学校とは違う特色、広域通学の良さをどのようにアピールするのか。そこが見えてこない。のちに他の学校もどうしていくのか、教育委員会の中で議論しなければならないのでは。

〈石黒教育長〉広域通学に限らず、いろいろな視点で検討していきたい。

〈議長〉小松市の教育界全体の大きな議論がある中、まずはここをフィックスしなければならないが、いつなのか見えてこない。それを今日宣言していただきたい。

〈事務局：教育次長〉スケジュールとして、平成29年7月までに校名を決定し、12月までには教育課程や学校行事をまとめていく。

〈議長〉先生方のスケジュールはそうかもしれないが、保護者から見たスケジュールはどうなるのか。来年の4月には統合されるのなら、もう少し踏み込んで良いのでは。

〈事務局：教育次長〉西尾小学校では、夏休みに入ってすぐに広域通学についての体験入学を行っている。それを宣伝する段階には、ある程度のコンセプトを示していく必要があると思っている。

〈議長〉そのスケジュールを核にしてほしい。以前、すべきことを細かくまとめていたが、それを踏まえてスケジュールを作成し、地元にも議会にも4月には公表すべきだと思う。

〈石黒教育長〉12月という年末の押し迫った時期では、戦略・戦術としては遅いと思う。コアな部分は7月中に発信していきたい。具体的なことについては、総合教育会議で提案させていただきたい。

〈北村委員〉・広域通学について、どのような学校にするのか周知徹底すべき。夏ごろか

ら早めに仕掛けていく必要がある。漠然としたことではなく、保護者の目に見えることを訴えてPRしていくことが広域児童の確保につながる。校名を決めることよりも一番大事なのはどのような学校にしていくかである。

- ・校名や制服などのイメージ戦略も大切であり、追々考えていかなければならないと思う。

〈石黒教育長〉新しい学校については、市外、県外からの転入者にも照準を合わせていくことが大事だと思う。学校には細かいこともたくさんあるが、優先順位を付けて、コアな部分、概要をできるだけ早く発信していきたい。

〈議長〉この業務に携わる人全員が、少し頭を切り替え、立ち位置を見直していくことが大事ではないか。総合政策部長から何かないか。

〈事務局：総合政策部長〉3校が統合してから義務教育学校になるまでの3年間だけの小学校在りになってしまうのではないかという心配があった。校名や校歌は一貫したものにしていきたいというお話だったが、具体的に教えていただきたい。

〈事務局：教育次長〉小中一体となった学校には、何とか小中学校という名称もある。義務教育学校は、小学校・中学校、小中学校といった名称でなくても良く、義務教育学校という名称も付けなくても良い。例えば、何とか学園、何とか学園小学部・中学部といった名称が使われている。平成30年度の段階から何とか学園、何とか学院などの名称でスタートすれば問題ないと考えている。

〈事務局：総合政策部長〉そうすると、松東中学校は平成33年に何とか学園に変わると思えば良いのか。

〈事務局：教育次長〉その通りである。

〈議長〉平成30年に変えれば良いのでは。

〈事務局：教育次長〉小・中学校それぞれに校長を置き、名称だけ変えることも有り得る。

〈議長〉ここは我々の思いを一つにすることだと思う。校名が統一されれば小学部と中学部との交流も盛んになるし、地区も一体になる気がする。

〈事務局：教育次長〉この件については教育委員会事務局で検討していきたい。

〈石黒教育長〉事務局もそうであるし、地域にも話をしていかなければならない。

〈議長〉これを進めることによって学校は明らかに高度化してくる。この学校だけではな

く、他の小学校や中学校の保護者、生徒に対しても大きなステップにし、みんなで考えていく良い機会にしなければならない。

・いつの段階で校名を変更するのは、教育長と教育次長の頭と腹一つである。

〈蘆邊委員〉平成 30 年から意識を持っていくという意味では良いと思う。

〈議長〉3 小学校統合、学習指導要領の改訂、英語教育や道徳など、いろいろと変わるタイミングであり、ちょうど良い時期であると思う。小松市の教育全体のチェンジになる。

〈石黒教育長〉十分理解できるが、我々 2 人の頭と腹だけでなく、地域にもご理解を得ていきたい。

〈議長〉ここで結論を出すのか出さないのか。

〈石黒教育長〉少し時間をいただきたい。

〈議長〉この件も含めて、今月末にもう一度会議を開くという前提で、最終案を作ってほしい。平成 33 年度に義務教育学校としてスタートするという最初の提案ではなく、平成 30 年に名称や位置付けを一緒にした方が良いのではないかという話をどうするかである。県の教育委員会にも確認しなければならない。

〈石黒教育長〉意向は良く分かった。

〈議長〉たびたび集まっていたいただき恐縮だが、重要なテーマなのでもうひと踏ん張りお願いしたい。

〈野田委員〉事前の話し合いで校名の話題になり、小松のモデル校であり先頭を切った名称として、小松学園初等部・中等部といった案も出していた。地域の人たちが松東中学校の名称に慣れ親しんできたので、地元の理解が必要であると思う。

〈議長〉その辺をどう尊重していくかである。

〈石黒教育長〉学園もあるし学院もあり、それぞれ意味がある。どれが適しているのか、みんなで考えていきたい。

〈議長〉そういうことも皆さんでご検討いただきたい。

○閉 会